



今月生まれのお友達をご紹介します

Happy Birthday



竹上 悠人ちゃん
(井関大矢)

☆親の願い 元気で明るく育ってネ!!!



日熊 大晴ちゃん
(榎 永)

☆親の願い 心は広く、何事にもどっしりと構えられる子になってほしいです。



光末 興生ちゃん
(上)

☆親の願い わんぱくでもたくましく、人の気持ちが分かる優しい子になってね!!



安彦 祥真ちゃん
(相 誠)

☆親の願い 元気で思いやりのある人になってね。いたずらはほどほどに...



柴田剛太郎ちゃん
(下豊松)

☆親の願い 明るく元気に大きくなってください。

この秋、「第五十八回日本学校農業クラブ全国大会」が四十八年ぶりに広島県で開催されます。この大会は、農業クラブに所属する全国十一万人の高校生たちが、農業に関する自分の考えや取り組み、プロジェクトについて意見発表し、その内容や発表態度などを競うもので、いわゆる農業系高校の甲子園。これに、中国プロック代表として出場を決めたのが、油木高校産業ビジネス科三年生で同校農業クラブ会長も務める瀬尾春佳さん、同クラブの中川義浩君。瀬尾さんに、制限時間七分という意見発表をしていただいた。

「神石高原町にはこれだ」という銘菓がない。語り始めた彼女は先ほどまでの控えめな印象が一変。挑んでくるかのような力強さに圧倒される。「水田が至る所で荒れている。何か利用できないか」。農家は生産することのみで営業という概念はなかった。地産地消から地産地商へ」。瀬尾さんは「農産物を、完成された一つの商品として売り込む技術が地域には必要で、そのために銘菓を開発したい」という。材料は全て神石高原町産にこだわりますが、砂糖だけは生産されていない。

「砂糖大根を栽培し砂糖を精製。完全。神石高原町産シフォンケーキの完成です。大量生産できる体制をつくり、町の銘菓として多くの方に喜んでもらいたい」

「もうここまでできたなら、日本一を目指すしかありません」と笑顔で答えてくれた瀬尾さん。十月二十四日、広島県民文化センター（福山市）で中川君と共に全国大会に臨む。皆の夢を背負った十八歳。最優秀賞を手にし、全国十二万人の頂点に輝くと。輝いて。ほしい。

神石高原町の 一番星 No.06 み～つけた



上自治振興会の
瀬尾 春佳さん